

概要

3月の二見湾定地水温(図1)は、はじめ平年並で推移していましたが、徐々に上がり、16、17日には観測以来の過去最高水温を記録しました。その後も昇降温を繰り返しました。月平均は、過去平均より、0.7 高い21.2 でした。

4月の観測からは、三代目興洋となり、船共々調査・観測機器も新しくなります。水温及び水深の観測は、メモリー式CTD (SEA - BIRD社SBE19plus)に変更されます。測定項目も増えました。各項目と測定レンジ、精度(±)は以下の通りです。水温 -5 ~ +35 (±0.005)、電導度 0 ~ 7s/m (±0.0005)、水圧 0 ~ 2,000m (±0.1%)、DO 0 ~ 15ml/l (±0.1)、クロフィル 0.02 ~ 15µg/l (±0.02)です、生データについては、1m単位で取得予定です。

また、従来までのウインチは、波による船体動揺により、ワイヤーが切れるなど観測機器を紛失するケースが想定され、ウインチを操作する人間は、常に神経をすり減らしてきました。新船には、ヒブ補償(船体動揺吸収)機能付のCTD専用ウインチを装備しています。船体の揺れに合わせ、ワイヤーの繰り出しを調整し、適正なスピード(1m/s)をキープしながら、CTDを設定水深まで下ろすことが可能となりました。

二見湾定地水温

毎日午前中1回、父島二見湾内青灯台にて表層水温を測定(1974~)



今月平均 21.2
過去平均 20.5

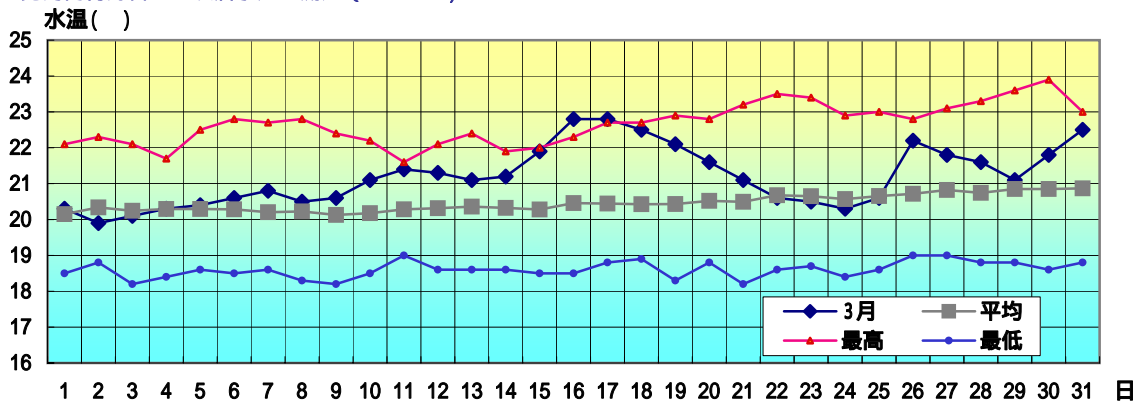


図1 3月の定地水温推移



図3 メモリー式CTD



図2 三代目「興洋」



図4 ヒブ補償付CTD用ウインチ

バックナンバーは下記で公開中

<http://www.soumu.metro.tokyo.jp/07ogasawara/suisancenter/33umi.htm>